

令和3年度職業能力開発論文コンクール「入賞者の声」

令和3年度職業能力開発論文コンクール厚生労働大臣賞（入選）に入賞された鶴田 暁氏が、コンクール事務局の質問に回答してくださいました。

入賞者の声：

Q 1. 普段はどのような業務に携わられていらっしゃいますか。

現在、四国職業能力開発大学校 専門課程 住居環境科を担当しています。総合制作実習では、木造建築物の耐力壁および接合部の評価に関するテーマ、木造建築物の施工に関するテーマに取り組んでいます。

Q 2. 今回の論文はどう業務に活用して貰いたい（どういった方に読んでいただきたい）ですか。

本論文は、木造建築物の構造計画や耐力壁の施工方法や施工精度が耐震性能に及ぼす影響を検証した内容です。したがって、職業能力開発施設で木造建築の耐震性能を評価する訓練を担当する先生方に活用していただくと幸いです。

Q 3. 今回の論文を作成する際に気を付けたことはございますか。

本テーマで取り組む耐力壁の構造性能を評価する面内せん断試験は、得られたデータを解析し、難しい専門用語やグラフを使って考察します。その用語やグラフが読者にとって見やすく解りやすい表現となるように気を付けました。

Q 4. 今後の応募を検討されている方へのメッセージはございますか。

本テーマに費やした期間は3年です。その中で特に力を注いだ点は、文章、作成した図やグラフを俯瞰して見直しを繰り返し、ミスを徹底的に減らすことでした。見直しをおこなった期間は6か月程度です。重要なことは、ミスを減らし論文として完成度を高めることであると感じました。

Q 5. 今回の論文を執筆された心境やきっかけをお聞かせください。

本論文は、現在の職場へ異動する前から取り組み、現在の職場へ配属されてからも継続して3年間取り組んだ内容です。本研究で取り組む面内せん断試験で使用する静的加力試験機を保有する職業能力開発施設は限られており、本研究の内容に関するノウハウと試験機の利用方法を継承することは極めて重要です。本論は、論文作成に関するご指導くださいました前配属先での建築施工・構造評価分野の先生方、実験のノウハウを指導くださいました関係者、実験実習に取り組んだ学生に感謝の意を込めて執筆しました。深謝申し上げます。

ご回答いただきどうもありがとうございました。

令和3年度職業能力開発論文コンクール事務局
基盤整備センター